

第2章 天理市の概況と課題

第2章 天理市の概況と課題

I 天理市の概況

人口・世帯数	年齢別人口構成及び世帯数の推移	<ul style="list-style-type: none"> ✓2015年の国勢調査では67,398人。1995年の74,188人をピークに減少し、今後の人口推移の推計でも引き続き減少するとみられる。 ✓1970年時点で7%を超え高齢化社会、2000年で14%を超え高齢社会、2015年で21%を超え超高齢社会となる。 	
	流入人口と流出人口	<ul style="list-style-type: none"> ✓流入人口の比率はほぼ同等。奈良市への流出が最も多く、次いで大阪府。 ✓奈良市からの流入が最も多く、次いで大和郡山市・桜井市・橿原市。 	
	若者世代の人口変動	<ul style="list-style-type: none"> ✓天理大学が影響し、10代後半～20代前半にかけて大きく人口増加しているが、大学を卒業する年齢層で急激に人口の流出が発生している。 	
都市整備	土地利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ✓市街化区域内においては、概ね都市的土地利用への転換が進んでおり、市街化調整区域では、農地からの転用が見られるほかは進展があまり見られないため、本市の土地利用に関しては、一定の法規制が機能している。 	
	法規制	<ul style="list-style-type: none"> ✓市内全域が都市計画区域に指定されている中で、市街化区域が分散して指定されている。福住地域の市街化区域は全域が工業地域となっている。 ✓本市における地区計画は計8地区で実施されており、文化・芸術の国際的拠点づくりを進める計画が杣之内地区で策定されている。 	
	地価	<ul style="list-style-type: none"> ✓天理市の地価の状況は、全体として下落傾向にある。 ✓平成30年では、平成6年と比較すると、地価は60%以上の下落となっている。 	
	道路・公共交通	都市計画道路	<ul style="list-style-type: none"> ✓本市の都市計画道路は平成31年3月時点において、全37路線、計画決定延長計72,515mであり、改良済延長は43,495m、改良率は約60%となっている。 ✓直近で計画決定された路線としては、都市計画道路東井戸堂西長柄線(九条バイパス)が挙げられる。
		公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ✓本市内を通るJR、近鉄各駅の1日平均乗客数の推移は、各駅ともにほぼ横ばいの状況である。最も乗客数が多い駅は近鉄天理駅で、1日平均乗客数は2012年から2017年の間、6,500人～7,000人であり、本市の中心駅である。 ✓路線バス(奈良交通)のほか、コミュニティバス(いちよう号)が運行している。福住地域における1日の運行本数は少ない。
		市民の交通行動の動向	<ul style="list-style-type: none"> ✓公共交通である鉄道やバスの割合が継続して少ないほか、徒歩の占める割合が減少傾向を示している。 ✓自動車の占める割合が増加しており、全目的別では昭和55年時点と比較すると平成22年時点は約2.2倍に増加している。

都市整備	都市計画公園		<ul style="list-style-type: none"> ✓本市の都市計画公園は、市域全域に広く分布している。特に大きな面積を有する公園として、「天理ダム風致公園」、「長柄運動公園」及び「神宮外苑公園」等が挙げられる。
	公共施設		<ul style="list-style-type: none"> ✓天理市の公共施設は、概ね市街化区域内の主要幹線沿いに立地している。 ✓特に、天理駅周辺に多くの公共施設が集積している。そのほか、各駅を中心とした徒歩圏に立地している施設が多い。 ✓最寄りの鉄道駅から離れている施設については、鉄道以外の手段が必要となる。
	公共下水道		<ul style="list-style-type: none"> ✓下水道の整備状況は、認可区域内のほとんどの地域が整備済み区域となっている。
	防災	災害想定区域	<ul style="list-style-type: none"> ✓山間部と平野部の境界付近では土砂災害の危険区域として土石流・急傾斜地危険区域が市内各地域に指定されている。 ✓平野部では、国道169号の東側で大規模な土砂災害危険区域（土石流）及び土石流危険区域に指定されている。 ✓浸水想定区域としては、市域の西側における大和川水系に近い地域での浸水が予想されている。
避難施設		<ul style="list-style-type: none"> ✓本市における指定緊急避難場所及び指定避難所は、50箇所が指定されている。 	
産業	商業		<ul style="list-style-type: none"> ✓本市の商業は、事業所数の推移を見ると減少傾向が続いている。従業者数と年間商品販売額は、2007年までは緩やかな増加傾向を示していたが、2008年のリーマンショックを受けて2012年に大幅に減少した後、若干増加を示している。
	工業		<ul style="list-style-type: none"> ✓本市の工業のうち、事業所数、従業者数、製造品出荷額の推移は、すべて概ね減少傾向が続いている。特に、製造品出荷額は2007年から2017年で、48%の減少となっている。
	農林業		<ul style="list-style-type: none"> ✓本市の農林業において、担い手や後継者が減少している。
財政	歳入・歳出		<ul style="list-style-type: none"> ✓民生費、衛生費の割合が増加している一方、土木費の割合が減少している。 ✓扶助費が大幅に増加している一方、投資的経費（普通建設事業費の補助・単独ともに）が大幅に減少している。

II まちづくりの課題

(1) まちづくりの課題の考え方

1) これからのまちづくりの留意点

我が国は、人口減少・少子高齢社会の到来をはじめとする社会潮流の中で経済社会構造の急激な変化への対応が求められています。まちづくりにおいても、これらの変化に対応するため、変革が求められています。都市計画は、無秩序な市街化の抑制など、これまではどちらかといえば守りの視点から都市をとらえがちでしたが、今後は、従来の受け身的な都市計画の対応では解決できないものも現れてきています。また、持続可能な社会づくりに向けた取組みとして、持続可能な開発目標 (SDGs^{※1}) 並びに、サイバー空間 (仮想空間) 及びフィジカル空間 (現実空間) を高度に融合させたシステムにより経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会を目指す Society5.0^{※2}の考え方が求められています。

このため、様々な都市の課題を解決していくという立場から、これからの都市計画は主体的に他の政策手段と連携をとって取り組んでいく姿勢 (消極的な都市計画から、積極的な都市計画への転換: ポジティブ・プランニング) が求められる時期に来ていると言えます。

一方で、令和 2 年 (2020年) 初頭から発生した新型コロナ危機は、私たちの生活を大きく変えることとなりましたが、このような急激な社会の変化にも柔軟に対応できる、新たなまちづくりへの転換といった視点も必要になっています。

また、交通においては、複数の交通手段を利用する際に最適なルートを組み合わせて、検索・予約・決済等を一括で行うサービスの構築が求められています。

※1 SDGs: 2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標であり、17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っている。SDGs は発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル (普遍的) なものであり、日本としても積極的に取り組んでいる。

※2 Society5.0: Society5.0 で実現する社会は、IoT (Internet of Things) ですべての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服する。また、人工知能 (AI) により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服される。社会の変革 (イノベーション) を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合える社会、一人ひとりが快適で活躍できる社会となる。

あわせて、観光地・医療施設など目的地ごとのサービスとアクセス利便性を向上させることによって、地域の快適性向上、地域の様々な課題の解決、さらにはまちづくりへの展開が期待されます。

2) 本市が進める重要施策との関係

本市では今後、学校教育施設の改築や、老朽化した北保育所の移転建て替え、新焼却施設及び粗大ごみリサイクル施設の建設など、こども達を含めた安全で健康的な生活環境を守るために不可欠な大型事業を予定しています。また、都市計画道路別所丹波市線及び都市計画道路東井戸堂西長柄線(九条バイパス)といった、都市の骨格となる道路整備についても、早期開通に向けた取り組みを進めていきます。

天理駅前広場コフンは、供用開始以来、日常的に多世代が交流する地域資源として市民に定着しており、市民主導で多くの行事イベントが開催され、まちの活性化につながっています。また、令和4年3月に開村した「なら歴史芸術文化村」は、歴史的資源に触れ、質の高い文化芸術イベントを体験できる歴史芸術文化活動の拠点となる施設で、天理駅前広場コフンから「なら歴史芸術文化村」を結ぶエリアを、芸術・文化、スポーツなど天理の強みを活かし、継続的な賑わいを創出する地域としていきます。特にスポーツに関しては、本市ではこれまで多くのオリンピック選手やメダリストを輩出しており、市内外からスポーツへの関心が高くなっていることから、スポーツのまちとして本市のプロモーションに取り組む大きな機会が到来しているといえます。本市の魅力については、本市に多数存在する古墳や寺社仏閣、それらをつなぐ山の辺の道などの優れた観光資源の数々を、地域の誇りや特徴の再発見を地元や地域社会と共有・共感しながら、インバウンドを含む国内外からの来訪者へ、市内各団体と協働し、"Time Travel City" "Be a Time Traveler." を合言葉に世界へ発信していきます。



天理駅前広場コフン

また、教育や地域交流に欠かせない教育関連施設の活用方法を考察し、学校教育と地域社会の融合を図ることで、学校が地域の絆づくりと支え合いの場となり、地域社会において多世代が学び交流できる拠点となる取組みを進めていきます。

待機児童対策としては、幼保再編を実施し2園をこども園としてリニューアルするとともに、民間保育所の誘致を行いました。これからも待機児童の解消に努めるとともに、子育て世代が暮らしやすい環境づくりを推進します。今後は、高齢者のみならず、学校と家庭・地域が連携し、学校教育と子育て、地域活動と生涯学習を再構築していくことが重要となります。

さらに、災害や社会変容に備えた安全で安心して暮らせるまちづくりを実現するために、天理市総合防災マップ等を活用した日頃からの自然災害に対する備えや、天理市国土強靱化地域計画に基づく、公共施設の適正配置及び改修、道路網の整備や橋梁の長寿命化など、ハード・ソフトの両面から施策を進めていきます。

このように、本市はこれからも様々な取組みを進めていきますが、まちづくりは、これらの重要施策と密接に関わるものになります。本市の将来の展望を慎重に見据えながら、子育て世代に着目した天理市立地適正化計画を踏まえた都市機能の集積や、低未利用地の活用、既存施設の有効活用、市街化調整区域の土地利用、地域コミュニティの維持、土地利用に関する調査結果等にも配慮し、様々な関連計画と連携しながらまちづくりを進めていくことが必要です。

このため、それぞれの地域の特性を活かしたまちづくりを目指して、各地域での明確なビジョンを示していくことが求められています。

3) まちづくりの課題の考え方

以上のことを踏まえ、まちづくりの課題を整理します。具体的には、多面的な観点での課題整理を行うため、まちづくりの要素別に「本市を取り巻く現状」、「上位・関連計画による本市の位置づけ」及び「市民・中学生意識調査」、さらには「若手職員ワーキング^{※3}」による問題点や課題等を簡潔に整理した上で、まちづくりの課題を設定します。

そして、「まちづくりの理念」「まちづくりの目標」を考える際には、まちづくりの課題解消のみに終始することなく、長期的な展望を持ったまちづくりを検討します。

※3 若手職員ワーキング：天理市若手職員の視点で、未来の天理市がどのようなまちになってほしいか、天理市全体の将来のまちづくりの課題、将来像、まちづくりの方向性について考えたワーキング。

(2) まちづくりの課題

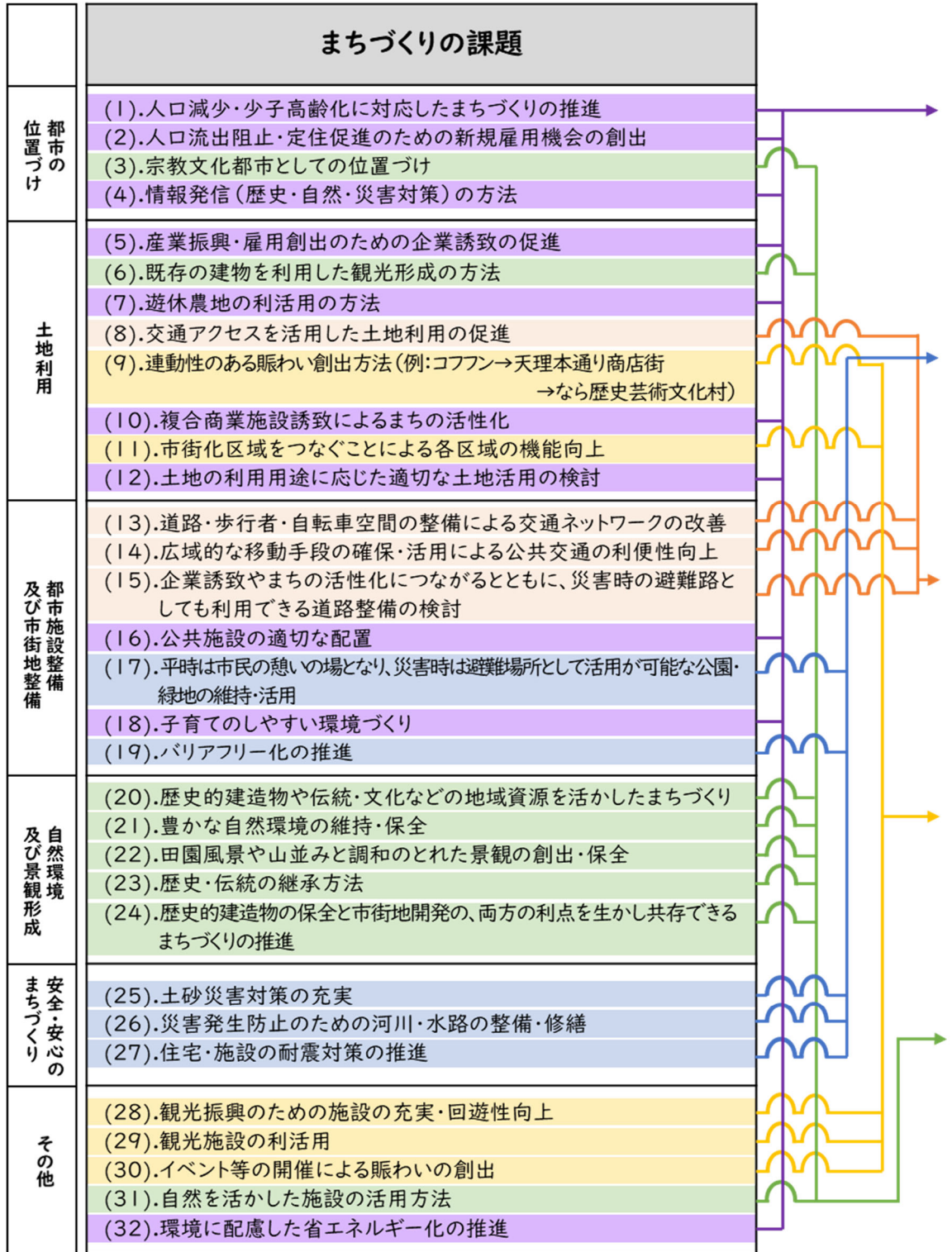
項目	天理市を取り巻く現状		若手職員 ワーキング
	天理市の現状	上位関連計画による 天理市の将来への方針	
都市の 位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ○人口は1995年をピークに減少傾向 ○今後少子高齢化がますます進行 ○流入人口の割合はほぼ同等 ○生活圏の中心都市としての役割を担う核型都市 ○全国に例のない宗教文化都市 	<p>大和都市計画及び吉野三町都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針</p> <p>北部地域(天理市を含む地域)の将来像</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆本県全体の先導的な役割を担う地域としての発展 ◆主要生活拠点であり、日常生活圏の中心である主要駅(天理駅)周辺における、奈良らしい景観との調和、居住機能、商業、文化等の様々な機能を配置、拠点性の向上 ◆拠点周辺の市街地の再構築を推進、既存の資源を活かしながら創意工夫のもとで新たな機能の誘導、様々な交流を促す個性と魅力ある拠点の形成 ◆西名阪自動車道、名阪国道、京奈和自動車道のインターチェンジ周辺、幹線道路沿道、既存工業団地周辺等における、主として工業系、物流系、商業系の土地利用を計画的に推進、雇用の場の確保、高付加価値産業等の集積 ◆主要な幹線道路や鉄道等により「広域連携軸」「地域連携軸」「観光交流軸」を形成 ◆山の辺周辺など歴史文化遺産等の保全、魅力向上、歴史的まちなみの保全・整備、多様な宿泊施設・ターミナル機能等の集積等による観光交流拠点の形成 ◆戸建て住宅地における良好な住環境の維持、高齢化等に対応した暮らしやすい環境整備、空き家の活用・住み替えの支援などによる若年層の定住の促進 ◆公共交通の結節点に医療や福祉サービス等の日常生活支援機能が集積した暮らしの拠点形成 	<ul style="list-style-type: none"> ○東部地区の高齢化、高原地区の人口減少 ○働き世代の市外流失 ○定住促進や新規雇用の創出 ○宗教文化都市
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ○市街化区域内における都市的土地利用への転換 ○市街化調整区域における一定の法規制の運用 ○市内全域が都市計画区域に指定、市街化区域が分散 ○地区計画は計8地区で実施 ○地価は全体的に下落傾向 ○本市の商業は事業所数が減少傾向、従業者数と年間商品販売額は2008年に大幅な減少、以降は増加傾向 ○本市の工業は、事業所数、従業者数、製造品出荷額の推移すべておおむね減少傾向、特に製造品出荷額は2007年から2017年で48%の減少 ○本市の農林業において、担い手や後継者が減少 	<p>天理市第6次総合計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆誰もが地域で安心して健やかに暮らせる「福祉」の充実 ◆地域の資源や人材を活用し、一人ひとりの豊かな未来を育む「教育」の充実 ◆天理ならではの魅力を活かした「賑わい」の創造 ◆活力あふれる「産業」の推進と安心して働ける場の創出 ◆災害や社会変容に備えた「安全・安心」して暮らせるまちづくりの確立 ◆都市基盤の整備と環境保全による快適で住みやすい「都市環境」の確立 ◆多様な連携・協働による持続可能な「行財政運営」の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○高速道路等の交通アクセスを活用した企業誘致 ○天理大学学生の就職機会の創出 ○賑わいを創出できる複合商業施設の誘致(国道24号線及び国道25号線沿い) ○コフワンを活用した商店街の活性化 ○宗教文化都市の継承 ○観光施設等の整備、インバウンドの呼び込み
都市施設 整備及び 市街地整備	<ul style="list-style-type: none"> ○本市の都市計画道路は平成31年3月時点において、全37線、計画決定延長計72,515m、改良済延長は43,495m、改良率は約60% ○本市内を通るJR、近鉄各駅の1日平均乗客数の推移は、各駅ともほぼ横ばい ○市街地内では路線バスの他、コミュニティバスが運行 ○天理市民の交通行動において、公共交通や徒歩の割合が少なく、一方で自家用車の占める割合が増加 ○本市の公共施設は、おおむね市街化区域内の主要幹線沿いに立地、特に天理駅周辺に集積 ○本市の都市計画公園は、市域全域に広く分布 ○下水道の整備状況は、認可区域のほとんどの地域が整備済み区域 ○暮らしやすいまちづくりのためのバリアフリー化の推進 		<ul style="list-style-type: none"> ○市内全域における、道路・歩道空間の整備 ○緊急輸送道路の活用方法の検討 ○災害時に対応した道路整備 ○山間部を含む広域的な移動手段(コミュニティバス等)の確保 ○公共交通機関の利便性向上(北部地方と南部地方は特に整備が必要) ○市街化調整区域内の公共下水道整備(農業集落排水や合併処理場) ○子育て世代が利用しやすい環境づくり(公園等) ○山間部等の街灯の確保





市民・中学生アンケート調査	まちづくりの課題
<p>○定住意向 市民アンケート:約 7 割以上 中学生アンケート:約 6 割程度 理由:「買い物や医療、公共交通の不便さ」など、日常生活を送る上で の利便性が不足</p>	<p>○人口減少・少子高齢化に対 応したまちづくりの推進 ○人口流出阻止・定住促進の ための新規雇用機会の創出 ○宗教文化都市としての位置づけ ○情報発信(歴史・自然・災害 対策)の方法</p>
<p>【要望・傾向】</p> <p>■要望</p> <p>○住宅地 「身近な道路・公園・下水道などの維持・改善」</p> <p>○商業地 「日常の買い物ができる施設」</p> <p>○工業地 「地場産業の振興・創出」 「工業団地への企業誘致の促進」</p> <p>○農地 「遊休農地、耕作放棄地の市民農園としての利活用」 「新規就農希望者に対する農業経営支援による農地の次世代継承」</p> <p>○道路 「歩道や交通安全施設(照明、カーブミラーなど)の維持・改善」</p> <p>○公園・緑地 「災害時に避難できる公園の維持・活用」</p> <p>○公共交通 「バスの充実」</p> <p>○インフラ等 「日常的な買い物ができる施設」 「普段利用する道路・公園など身近な生活環境」 「交通インフラに関しての施策」</p> <p>■傾向</p> <p>○満足度【高】 「上水道等の生活用水の供給対策」 「上水道の安定供給」 「ゴミやし尿の処理対策」 「家庭からの排水・雨水の排水対策」</p> <p>○満足度【低】 「歩道・自転車道や自転車通行帯の整備」 「バス・鉄道等の公共交通の利便性」</p> <p>○重要度【高】 「病院や診療所などの医療施設」 「日用品の買い物および生活道路」</p> <p>○その他 「就業機会の充実した、産業の盛んな活力あるまち」のイメージ僅か 「就業環境」を魅力とする回答最少</p>	<p>○産業振興・雇用創出のため の企業誘致の促進</p> <p>○既存の建物を利用した観光 形成の方法</p> <p>○遊休農地の利活用の方法</p> <p>○交通アクセスを活用した土 地利用の推進</p> <p>○連動性のある賑わい創出方 法(例:コフン→天理本通 り商店街→なら歴史芸術文 化村)</p> <p>○複合商業施設誘致によるま ちの活性化</p> <p>○市街化区域をつなぐこと による各区域の機能向上</p> <p>○土地の利用用途に応じた適 切な土地活用の検討</p> <p>○道路・歩行者・自転車空間 の整備による交通ネットワ ークの改善</p> <p>○広域的な移動手段の確保・ 活用による公共交通の利便 性向上</p> <p>○企業誘致やまちの活性化に つながるとともに、災害時の 輸送路としても利用できる道 路整備の検討</p> <p>○公共施設の適切な配置</p> <p>○平時は市民の憩いの場とな り、災害時は避難場所として 活用が可能な公園・緑地の 維持・活用</p> <p>○子育てのしやすい環境づくり</p> <p>○バリアフリー化の推進</p>

項目	天理市を取り巻く現状		若手職員 ワークショップ
	天理市の現状	上位関連計画による 天理市の将来への方針	
自然環境 及び 景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ○市街地から眺望することができる、大和青垣に代表される豊かな山あいの稜線 ○市街化調整区域を中心に広がる田園風景 ○天理教施設は本市の特徴的な景観 ○日本史上最古の道として知られる山の辺の道や、古墳が点在するなど、風光明媚な景観の保存 	<p>第2期天理市まち・ひと・しごと創生総合戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地域資源と新しい技術・多様な働き方を融合し、安心・充実して働ける場を創出する ◆天理ならではの魅力を活かし、新しい人の流れを作る ◆子どもを産み育てたい人の希望が叶う、選ばれるまちになる ◆垣根を越えた連携・協働で、暮らしやすく、住み続けたいまちをつくる <p>天理市立地適正化計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆20歳代から30歳代の若者・子育て世代が住み続けたいまち ～高齢者も元気に暮らせるまち～ ◆中心拠点【天理駅・前栽駅周辺地区】 ～天理駅を最大限に活かした賑わいの創出～ ◆地域生活拠点 ・北部地区【樺本駅周辺地区】 ～新たな産業振興による地域活力の向上～ ・西部地区【二階堂駅周辺地区】 ～職住近接性を活かした新しい生活スタイル～ ・南部地区【柳本駅周辺地区】 ～多くの地域資源を活用した交流人口の増加～ 	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史的建造物と現代社会の共存に向けた景観形成（天理駅周辺、樺本、小島町、前栽町等） ○石上神宮近くの桜並木及びいちよう並木の継承 ○山の辺の道周辺の自然環境と歴史的建造物が調和した景観及び上ツ道の歴史的景観の維持
安全・ 安心の まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○山間部・平野部の境界付近では、土砂災害の危険区域として、土石流・急傾斜地危険区域が指定 ○主に山間部と平野部の境界付近や平野部付近で土砂災害危険区域が指定 ○大雨時の大和川水系からの浸水被害の想定 ○本市における指定緊急避難場所及び指定避難所として、50箇所が指定 	<ul style="list-style-type: none"> ○災害発生に対応した河川・水路の整備 ○耐震化対策 ○天理ダムの活用 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○持続可能なまちづくりのための、省エネルギー化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史的建造物をより活用できるような案内板等の施設整備 ○人のつながりの尊重 ○観光における市内の回遊性向上 ○コフンやなら歴史芸術文化村等の施設の利活用（コフンとなら歴史芸術文化村との動線を確保） ○定期的なイベントや週末マーケット等の開催 	

市民・中学生アンケート調査	まちづくりの課題
<p>【要望・イメージ・魅力】</p> <p>■要望 ○森林 「できるだけ保全」 ○景観 「田園風景や周辺の山並みと調和が図られた景観づくり」</p> <p>■天理市のイメージ 「豊かな自然環境を大切にすまち」 「歴史や伝統などの個性を大切にすまち」</p> <p>■天理市の魅力 「自然の豊かさ」</p>	<p>○歴史的建造物や伝統・文化などの地域資源を活かしたまちづくり ○豊かな自然環境の維持・保全 ○田園風景や山並みと調和のとれた景観の創出・保全 ○歴史・伝統の継承方法 ○歴史的建造物の保全と市街地開発の、両方の利点を生かし共存できるまちづくりの推進</p>
<p>【イメージ】</p> <p>「地震・風水害などの災害に強いまち」 （「現在住んでいる地域から移りたい」と考えている住民のうち、福住中学校校区の人たちは「防災面が不安である」と感じる声突出）</p>	<p>○土砂災害対策の充実 ○災害発生防止のための河川・水路の整備・修繕 ○住宅・施設の耐震対策の推進</p>
<p>【要望・イメージ・魅力】</p> <p>■要望 ○観光・レクリエーション 「自然環境を活かした施設の維持・活用」</p> <p>■将来の天理市のイメージ 「保健・医療・福祉の充実したまちにしたい」</p> <p>■天理市の魅力 「人々の人情」※福住中学校校区の住民</p>	<p>○観光振興のための施設の充実・回遊性向上 ○観光施設の利活用 ○イベント等の開催による賑わいの創出 ○自然を活かした施設の活用方法 ○環境に配慮した省エネルギー化の推進</p>

(3) まちづくりの課題の類型化



まちづくりの課題の再整理	求められるまちづくりの類型化	アイコン
<p>キーワード: 子育て、産業・農業の活性化、協働、定住促進、持続可能なまちづくり</p> <p>少子高齢化が進行する現代において、将来にわたって持続可能なまちづくりをめざすために、子育てのしやすい環境づくりや産業の活性化、農業の担い手育成等を行う必要がある。また、行政主体の取組みには限界があり、民間企業や住民主体の活動を支援するなど、協働のまちづくりを行う必要がある。</p>	<p>持続可能なまちづくり</p> <p>子育て世代が暮らしやすい環境づくりや、企業誘致等による産業の活性化、遊休農地の活用による農業の担い手育成などを通して、定住促進をめざし、環境面にも配慮した持続可能なまちづくりを行うことが求められています。また、民間企業や住民主体の活動支援を行い、官民協働のまちづくりに取り組むことが求められています。</p>	 <p>持続可能</p>
<p>キーワード: 地域の強靱化、安全・安心、バリアフリー</p> <p>急激な気候変動により甚大な被害が、どの地域でも起こりうる現代で、被害を抑えることができる対策を講じること(地域の強靱化)が必要である。また、災害に対する課題は、即効対策が必要なものもあるが、避難時にも有効なバリアフリー化の推進等、長期的な視点で取り組むことも必要である。</p>	<p>安全・安心のまちづくり</p> <p>大雨・洪水、地震などの災害が頻発して発生している現代社会において、災害に備えるとともに迅速に対応することができる環境づくり(地域の強靱化)が求められています。また、災害に対する課題に、長期的な視点で安全・安心のまちづくりに取り組むことも求められています。</p>	 <p>安全・安心</p>
<p>キーワード: 公共交通利用、歩きやすい道路環境、コンパクトなまちづくり</p> <p>将来を見据えた都市構造を形成するために、道路整備や土地利用の純化、土地の高度利用を図る必要がある。また、住民へ公共交通機関等の利用を促す取組みや、歩きやすい道路環境を築くなど、住民のニーズに適合した環境づくりを行う必要がある。</p>	<p>快適性・利便性のあるまちづくり</p> <p>過度に自動車に頼らず、公共交通機関をより利用したり、歩いて暮らせる、コンパクトなまちづくりが求められています。また、買い物難民などに対応した、広域的な移動手段の確保及び快適性の高い道路整備を行うことが求められています。</p>	 <p>快適性・利便性</p>
<p>キーワード: 個性をつなぐ、循環できる環境</p> <p>本市には、交流人口などを誘起できる個性(観光・賑わい)が豊富に存在している。しかし、これらの個性は市内各地に点在しているため、個性をつなぐ取組みを行い、まちを循環できる環境づくりを行うとともに、各個性の質の向上に努める必要がある。</p>	<p>賑わいを生み出すまちづくり</p> <p>市内に点在する個性(遺跡・コフン)を点(単体)でとらえるのではなく、面(複合)でとらえることで、個性をつなぎ、循環できる環境を創り、まち全体に賑わいを創出することが求められています。また、賑わいを生み出し本市の魅力を上向きさせることで、交流人口を増やし、定住機運を高めることも求められています。</p>	 <p>賑わい</p>
<p>キーワード: 歴史、自然との共存、観光客数の増加、地域資源の活用</p> <p>古くから本市が有する地域資源(歴史・自然)の継承・保全を行うとともに、まちづくりと共存を図ることで、本市独自の魅力を形成する取組みが必要である。また、地域資源を市内外に周知し、観光客数の増加のために、情報の発信・共有を行うことも必要である。</p>	<p>歴史・自然との共存を図るまちづくり</p> <p>本市には日本史上最古の道として知られる山の辺の道や、古墳をはじめとする遺跡等が多数存在します。また、石上神宮周辺などの自然豊かな風景が広がるまちです。これらの地域資源を後世に継承していくとともに、観光誘客のための市内外への情報発信・情報共有も求められています。</p>	 <p>歴史・自然</p>